

昨日プレスリリースの下記コメントに誤りがありましたので訂正いたします(太字部分)。

# NEWS LETTER

## NEWS LETTER

---

2019年6月27日

一般財団法人岩手経済研究所

### 岩手県内新入社員の職業観と生活観について

#### —2019年新入社員意識調査より—

一般財団法人岩手経済研究所(理事長:高橋 真裕)は、定例の「2019年新入社員意識調査(アンケート)」を実施しました。

本調査の概要は以下のとおりです。

就職活動の厳しさは ~ 「厳しかった」が3割弱

※ 前回(2018年3~4月)調査比26.8ポイント低下

「それほど厳しくなかった」と「楽だった」が7割

※ 前回(2018年3~4月)調査比26.5ポイント増加

本調査の内容は、別紙「岩手県内新入社員の職業観と生活観—2019年新入社員意識調査—」は次のとおりです。また、詳しくは6月28日発行の当研究所機関誌「岩手経済研究 2019年7月号(No.440)」にも掲載いたします。

**岩手経済研究所**

〒020-0871

岩手県盛岡市中ノ橋通一丁目2番16号

岩手銀行中ノ橋支店3階

TEL 019-622-1212 FAX 019-654-8059

**=プレスリリース=**

2019年6月27日

**岩手県内新入社員の職業観と生活観  
—2019年新入社員意識調査より—**

標記について概要を取りまとめましたので公表いたします。なお、詳細は機関誌「岩手経済研究」2019年7月号に掲載予定です。

**<調査要領>**

1. 調査時期 2019年3~4月
2. 調査対象 岩手県内事業所に勤務（予定含む）する新入社員等
3. 調査方法 当研究所主催の新入社員研修会等における無記名アンケート方式
4. 回答者数 合計295  
(男性164、女性131)

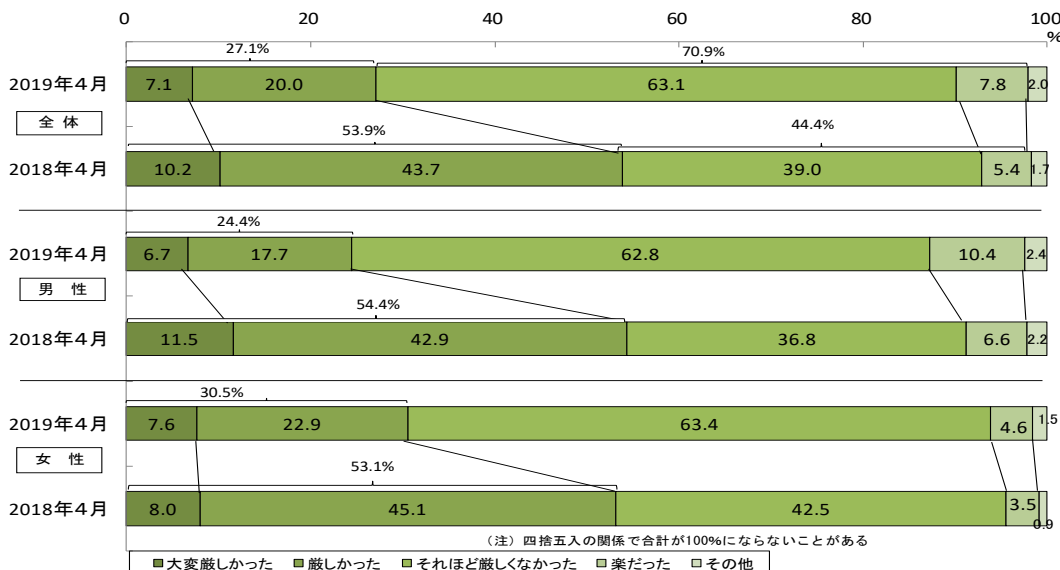
盛岡市中ノ橋通一丁目2番16号  
一般財団法人 岩手経済研究所  
理事長 高橋真裕  
経営相談部（担当 岩渕）  
TEL 019-622-1212

## ＜調査結果の要約＞

### ＜就職活動の厳しさは？＞

#### ○就活の感想は厳しさが大幅に緩和

就職活動を振り返った感想は「大変厳しかった」と「厳しかった」（以下「厳しい」）との回答の合計が27.1%（前年比26.8%増）と大幅に低下した。一方「それほど厳しくなかった」と「楽だった」との回答の合計は全体で70.9%（同26.5%増）と上昇した。「厳しい」の割合を男女別にみても男性は24.4%（同30.0%減）、女性は30.5%（同22.6%減）と、人手不足の深刻さに加え大口先の求人もあり厳しさは男女とも大幅に和らいだ。

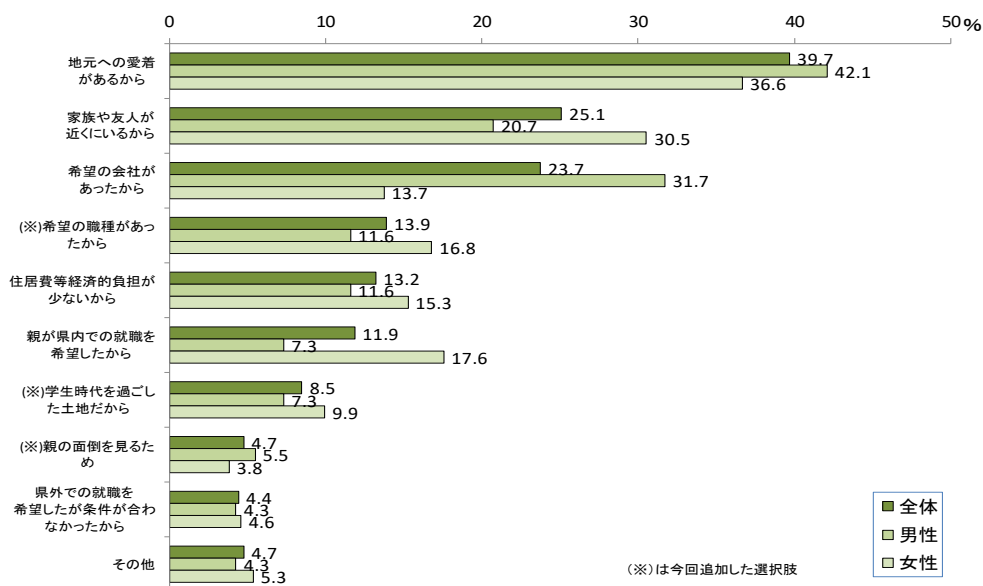


### ＜就職先として県内企業を選んだ理由は？＞

#### ○「地元への愛着」や「家族や友人の存在」

就職先として県内企業を選んだ理由は「地元への愛着があるから」が39.7%（同6.7%減）、「家族や友人が近くにいるから」25.1%（同6.3%減）、「希望の会社があったから」23.7%（同3.9%減）の順となった。選択肢を3項目増やしたため、前年対比では低下したが順位は前回同様に上位を占めた。追加した項目では「希望の職種があったから」が13.9%、「学生時代を過ごした土地だから」が8.5%、「親の面倒を見るため」が4.7%となった。

#### 就職先として県内企業を選んだ理由（2つ以内の複数回答）



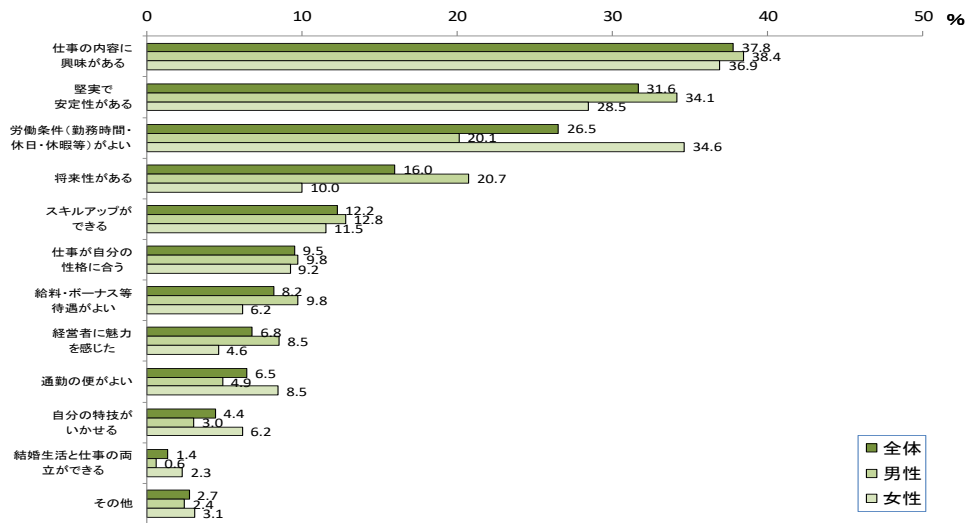
# 1. 職業観

## <就職先選択の理由>

### ○「仕事内容への興味」が「堅実性・安定性」を上回る

就職先を選んだ理由は前回2位の「仕事の内容に興味がある」が37.8%（同8.7ポイント増）と、前回1位の「会社が堅実で安定性がある」31.6%（同8.6ポイント減）を逆転し、以下「労働条件（勤務時間・休日・休暇等）がよい」26.5%（同0.2ポイント減）、「将来性がある」16.0%（同1.8ポイント増）などの順となった。前年と比べ最も増加した項目は1位の「仕事の内容に興味がある」で、特に女性は36.9%（同12.3ポイント増）と大きな伸びを示している。就職活動が学生優位となり選択の幅が広がった結果、仕事内容への興味が優先度を高めたものとみられる。

今の就職先を選んだ理由（2つ以内の複数回答）

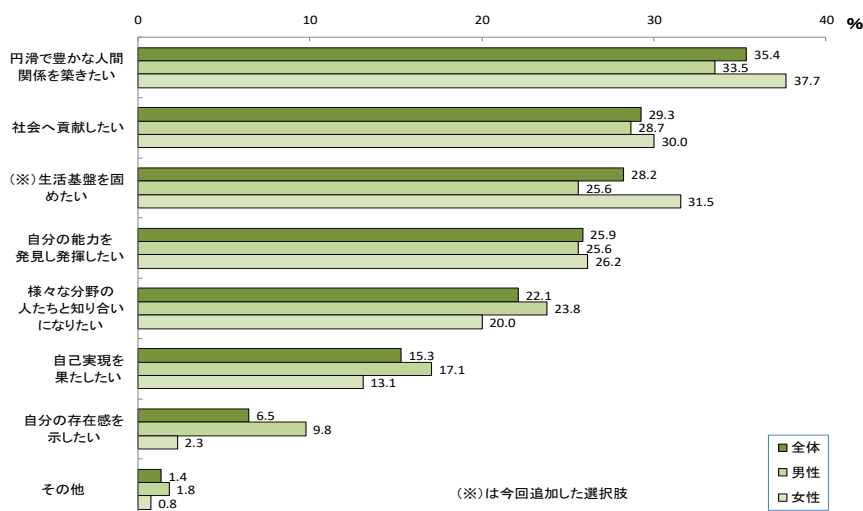


## <社会人生活に期待すること>

### ○「豊かな人間関係」と「社会貢献」、「生活の基盤固め」

社会人生活に期待することは、前回同様「円滑で豊かな人間関係を築きたい」35.4%（同4.4ポイント減）と、「社会へ貢献したい」29.3%（同7.4ポイント減）が上位を占め、「生活基盤を固めたい」28.2%（今回追加）が続いた。「円滑な人間関係」は男女とも3割を超え、女性は「社会貢献」と「生活基盤を固めたい」でも3割を超え、3項目とも男性を上回った。

社会人生活に期待すること（2つ以内の複数回答）

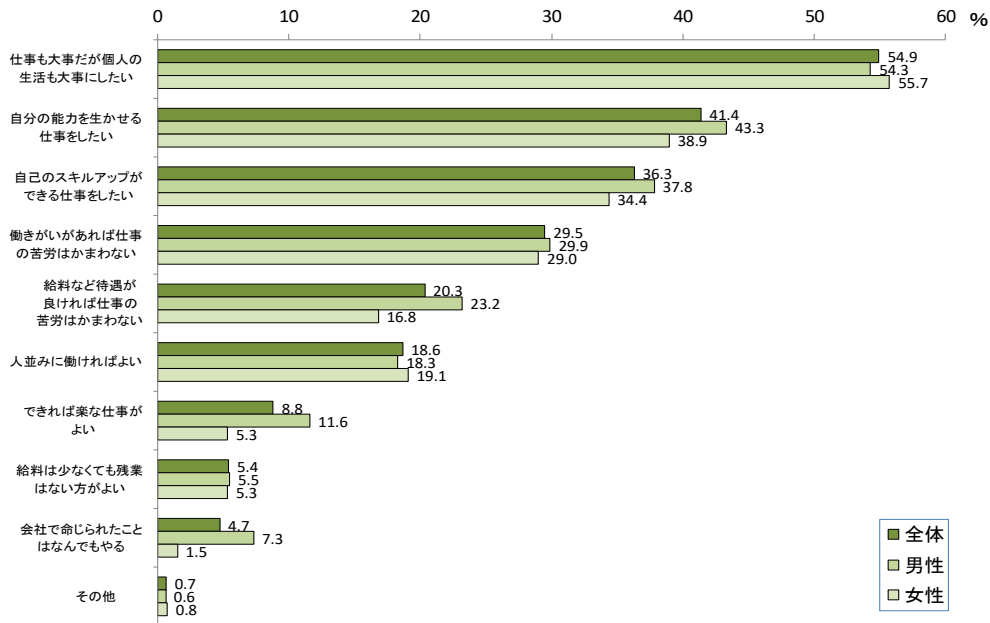


## <働くことについての考え方>

### ○「私生活とのバランス」と「自分の能力の発揮」

働くことについての考え方は「仕事も大事だが個人の生活も大事にしたい」が54.9%（同4.1%増）と最も多く、以下「自分の能力を生かせる仕事をしたい」が41.4%（同2.4%増）、「自己のスキルアップができる仕事をしたい」が36.3%（同2.1%増）などの順となった。「仕事も大事だが個人の生活も大事にしたい」は女性が前年の62.3%から6.6%低下、男性は同43.6%から10.7%上昇し男女差が縮小している。

働くことについての考え方(3つ以内の複数回答)

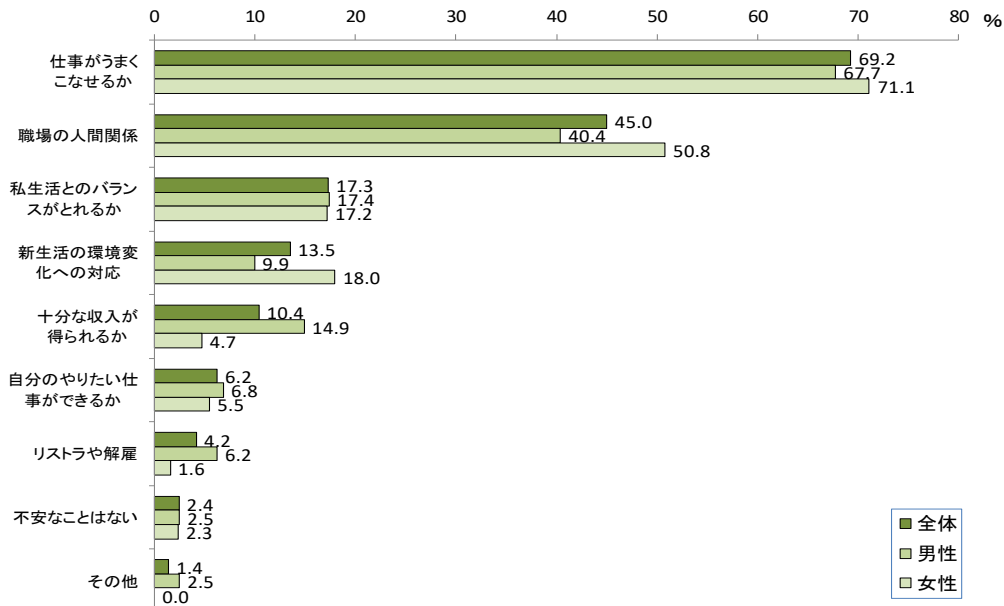


## <社会人生活で不安を感じること>

### ○「仕事がこなせるか」と「人間関係」が上位

社会人生活で不安を感じることは前年同様「仕事がうまくこなせるか」69.2%（同0.2%増）と「職場の人間関係」45.0%（同0.6%減）が男女ともに突出している。

社会人生活で不安を感じること(2つ以内の複数回答)

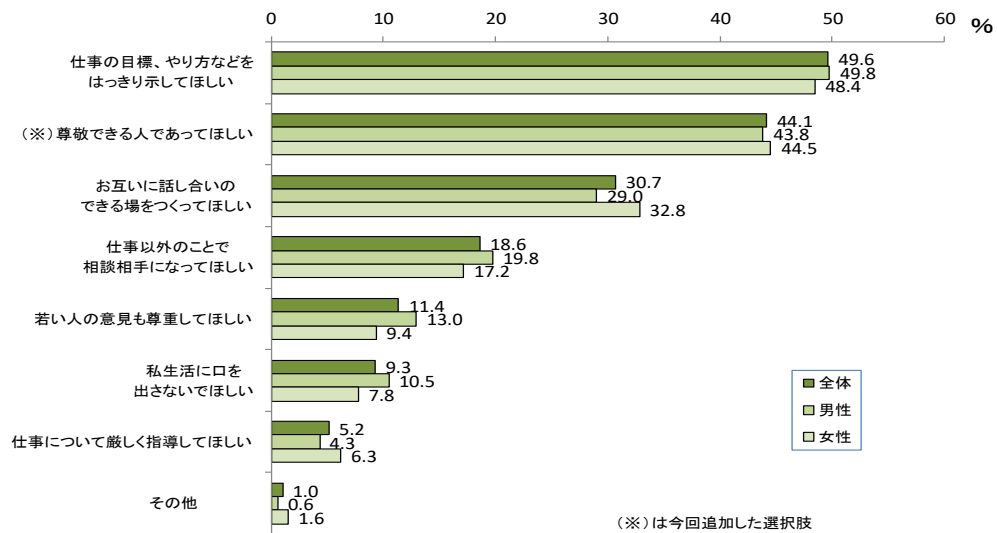


## <上司・先輩に望むこと>

### ○「仕事の明確な指示」と「尊敬できる人」を望む

上司・先輩に望むことは「仕事の目標、やり方などをはっきり示してほしい」49.6%(同8.5%増)、「尊敬できる人であってほしい」44.1%(今回追加)、「お互いに話し合いのできる場を作ってほしい」30.7%(同17.8%増)が上位を占めた。前項で上位となった「仕事への不安」に対しては明確な指示を望み、「職場の人間関係の不安」に対しては「尊敬できる上司・先輩」に期待する回答となっている。

上司・先輩に望むこと(2つ以内の複数回答)

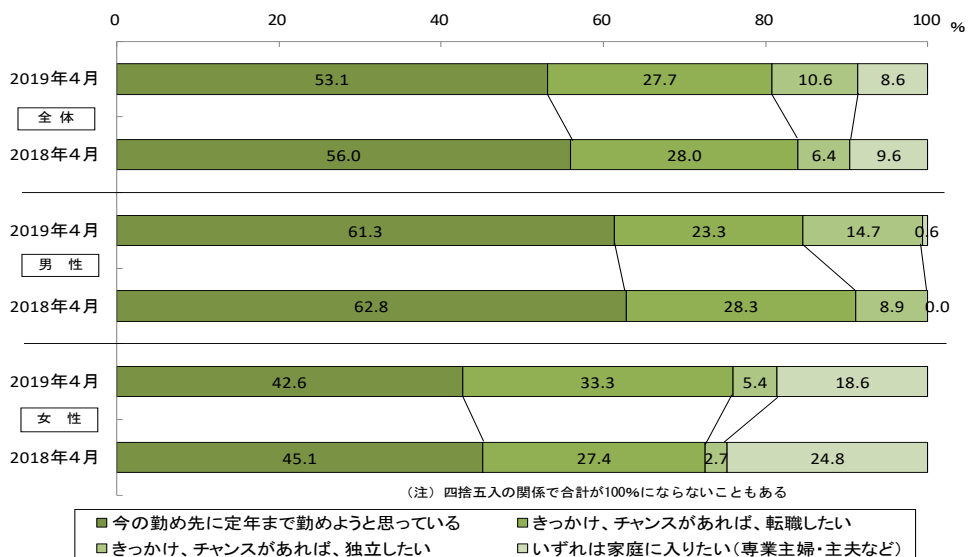


## <定年まで今の勤め先で働くか>

### ○「今の勤め先で定年まで働きたい」が減少

定年まで今の勤め先で働きたいかについては「定年まで勤めようと思っている」が53.1%(同2.9%増)と2年連続低下し、「きっかけ、チャンスがあれば転職したい」が27.7%(同0.3%増)、「きっかけ、チャンスがあれば独立したい」が10.6%(同4.2%増)の順となった。男女別では、女性は「家庭に入りたい」が減少し、「転職」「独立」が増加し、男性は「独立」を考える割合が高まった。

定年まで今の勤め先で働きますか？

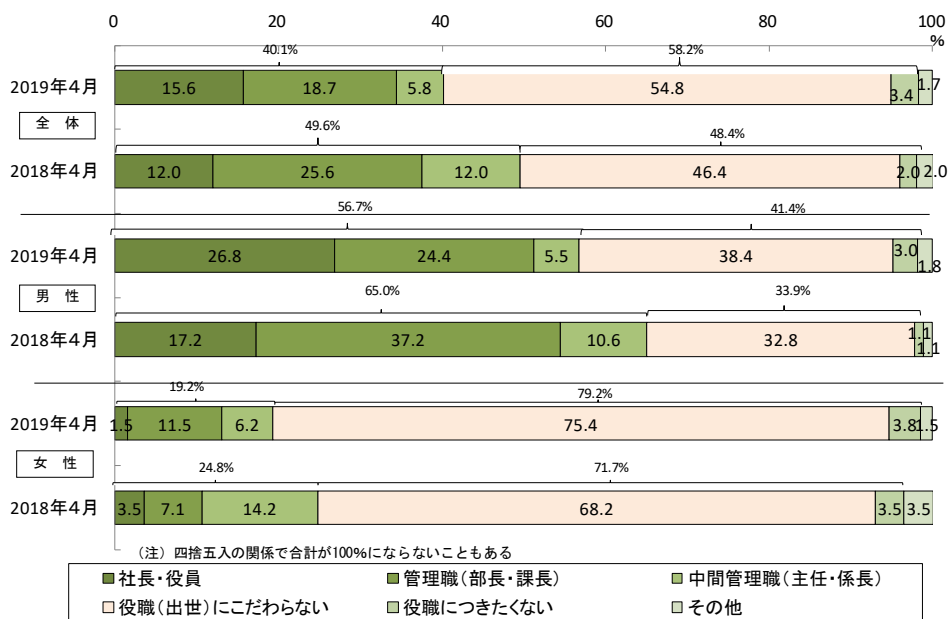


## <将来目指す役職は？>

### ○男女ともキャリア志向が弱まる

全体では「中間管理職以上を目指す」割合が40.1%（同9.5%増）と減少した一方、「役職（出世）にこだわらない」が54.8（同8.4%増）など役職（出世）に執着しない割合が増加した。男女別では中間管理職以上を目指す割合は、男性が56.7%（同8.3%増）に低下し、女性も19.2%（同5.6%増）と2割を切った。

将来目指す役職は？

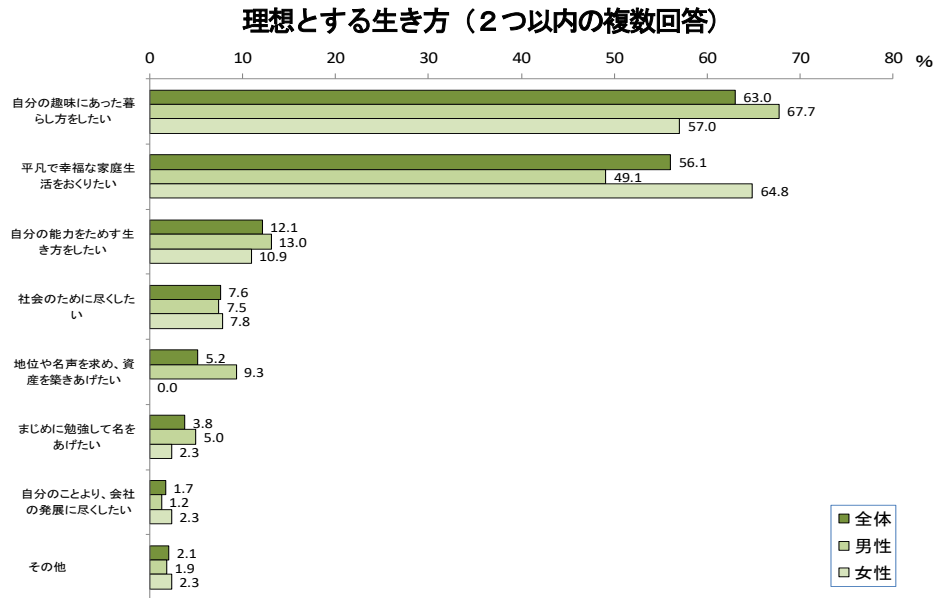


## 2. 生活観

### <理想とする生き方>

#### ○「趣味にあった暮らし方」が「平凡で幸福な家庭」を上回る

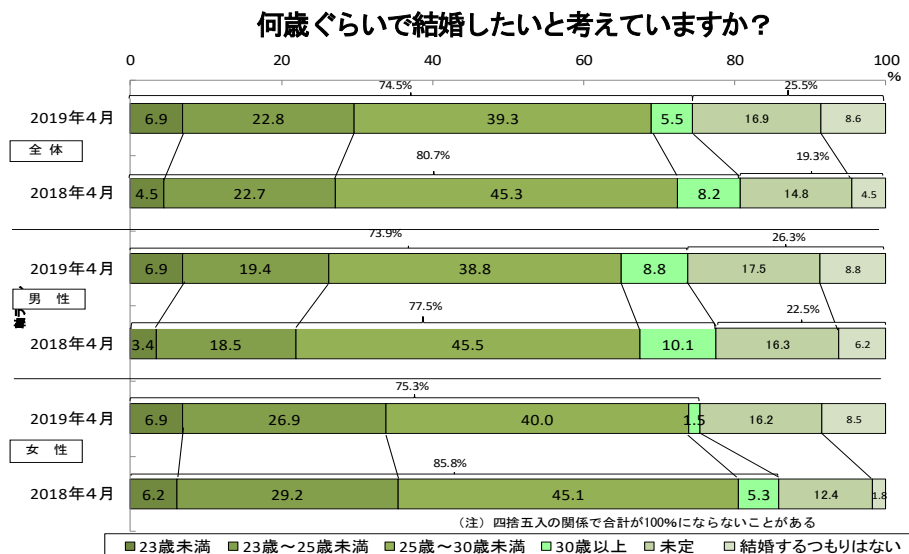
理想の生き方については「自分の趣味にあった暮らし方をしたい」が63.0%（同10.6ポイント増）と、前回最も多かった「平凡で幸福な家庭生活を送りたい」の56.1%（同11.0ポイント減）を上回った。男女で差が大きかった項目は、「自分の趣味にあった暮らし方」が男性が女性を10.7ポイント上回った一方、「平凡で幸福な家庭生活」は女性が15.7ポイント男性を上回った。



### <結婚について>

#### ○結婚希望は男女とも低下

年齢にかかわらず結婚したいと考える割合は74.5%（同6.2ポイント減）と低下し、結婚は「未定」または「するつもりはない」とする割合が25.5%（同6.2ポイント増）と高まった。男性では昨年と比べ「未定」または「するつもりはない」が3.8ポイント増加する一方で「25歳までに結婚したい」も4.4ポイント増加し、「25歳以上で結婚したい」が8ポイント減少しており、結婚観は2極化し、全体でも同様の傾向となった。

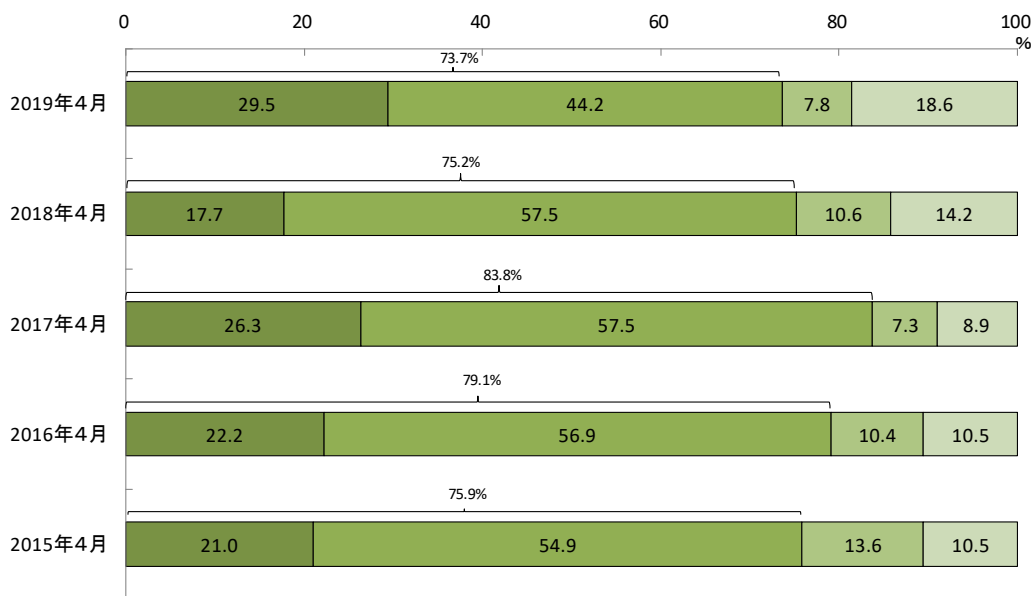




## ○「出産後もぜひ仕事を続けたい」とする割合が増加

女性に出産後の仕事について尋ねたところ、「ぜひ仕事を続けたい」が29.5%と前年より11.8ポイント増加したのに対し、「環境を整えば続けたい」は44.2%と13.3ポイント減少し、「仕事を辞め育児に専念したい」も7.8%（同2.8ポイント減）となった。

出産後の仕事の継続(女性に対し)



(注) 四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある

■ぜひ仕事を続けたい ■環境を整えば続けたい ■仕事を辞め育児に専念したい □わからない

## まとめ

調査結果をみると今年の県内新入社員の就職活動は人手不足の深刻化に伴い売り手市場で学生優位が進み、厳しさが大幅に和らいだ。厳しいと感じた人も人気企業での不採用や、大卒で日程調整や旅費の負担の重さを理由にあげた回答が目立った。

このような労働環境の変化を背景に、今年の新入社員の職業観は、堅実で安定性のある会社よりも興味のある仕事ができる会社を選び、定年まで働くよりも役職にはこだわらず、きっかけがあれば転職、独立したいといった希望を持つ傾向が強まった。生活観では、男女ともに結婚について未定やするつもりはないとする割合が高まる一方、女性では結婚出産後は育児に専念したいとする割合が低下し、ぜひ仕事を続けたいとする割合が高まっており、企業における出産や子育てへの支援体制のさらなる充実が望まれる。

人手不足のなか、各企業では様々な不安を持ちながら社会人としての第一歩を踏み出す新入社員が悩みや不安を克服し成長を実感できる、魅力ある職場づくりに、社内一体となって取り組み、優秀な人材の育成・確保につながる職場環境が醸成されることを期待したい。

以上